



『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

第23号(2008年8月8日)

「銘柄選択のための3つの問いかけ」

前回お話ししましたが、少ない銘柄に集中投資したポートフォリオは、多くの銘柄に分散投資したポートフォリオに比べ、市場平均よりも高いリターンを稼ぐ確率が高くなりますが、同時に市場平均よりも低いリターンとなる確率も高くなります。そこでより高いリターンを稼ぐためには優れた銘柄選択を行うことが、非常に重要になってまいります。

私どもが銘柄選択を行う際、以下の3つの問いを自分たち自身に投げかけています。第1の問いは、投資対象候補のビジネスはシンプルで理解しやすいかどうかです。どのような財やサービスを提供しているのか、なぜその財やサービスが売れるのか、またどのように利益を上げているのかを、自分の言葉で簡単に説明できるビジネスでなければなりません。ビジネスを理解しえない銘柄を保有していれば、ビジネスの進展を正確に把握することはできず、その結果、正しい投資判断を行うことができないからです。

第2の問いは、強固な財務基盤があるかどうかです。将来のことを予想する際、不確実性を完全になくすることはできませんが、過去に安定的な業績を残していれば、それは将来の姿を示す指標として、比較的信頼できると私どもは考えております。特にそのビジネスが過去から同じ財やサービスを提供している場合、同じことが今後も続くと考えても、大きく間違える確率は小さいと私どもは考えます。

第3の問いは、安定的に市場平均を上回る成長を期待できるかどうかです。市場平均を上回る成長が期待できるのは、そのビジネスが長期にわたって比較優位性を継続できる場合です。人々が求めるものを、その企業だけが提供できるという、独特のビジネスを持つ企業は、比較的自由に価格を決定できます。独特のビジネスを他の言葉で置き換えると、ブランド力が高いとも言うことができます。これが比較優位性のあるビジネスの特徴で、このようなビジネスは投資した資金に対して平均を上回るリターンをもたらす可能性が高いと考えます。

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。